

第29回IAIA年次大会出張報告

International Association For Impact Assessment (IAIA)



<http://www/iaia.org>

2009年10月28日

堀内 綾

社団法人海外環境協力センター

Overseas Environmental Cooperation Center, Japan (OECC)

MENU

I. IAIA

II. 第29回IAIA年次大会の概要

III. 質疑応答

International Association for Impact Assessment (IAIA)

- 名 称： 国際影響評価学会
- 設 立： 1980年
- 本 部： 米国ノース・ダコタ州
- 会員数： 2,500名/117カ国（`09年10月現在）
- 地域支部： イタリア、ガーナ、カナダ（3カ所）、
カメルーン*、韓国、ケニア*、スペイン、
ニュージーランド、ポルトガル、南アフリカ（10カ国）

IAIAのビジョン、バリュー、ミッション

- VISION

IAIA is the leading global network on best practice in the use of impact assessment for informed decision making regarding policies, programs, plans and projects.

- VALUES

To provide the international forum for advancing innovation and communication of best practice in all forms of impact assessment so as to further the development of local, regional, and global capacity in impact assessment.

- MISSION


IAIA promotes the application of integrated and participatory approaches to impact assessment, conducted to the highest professional standards.

(出典: <http://www.iaia.org/publicdocuments/miscdocs/Code-of-Ethics.pdf>)

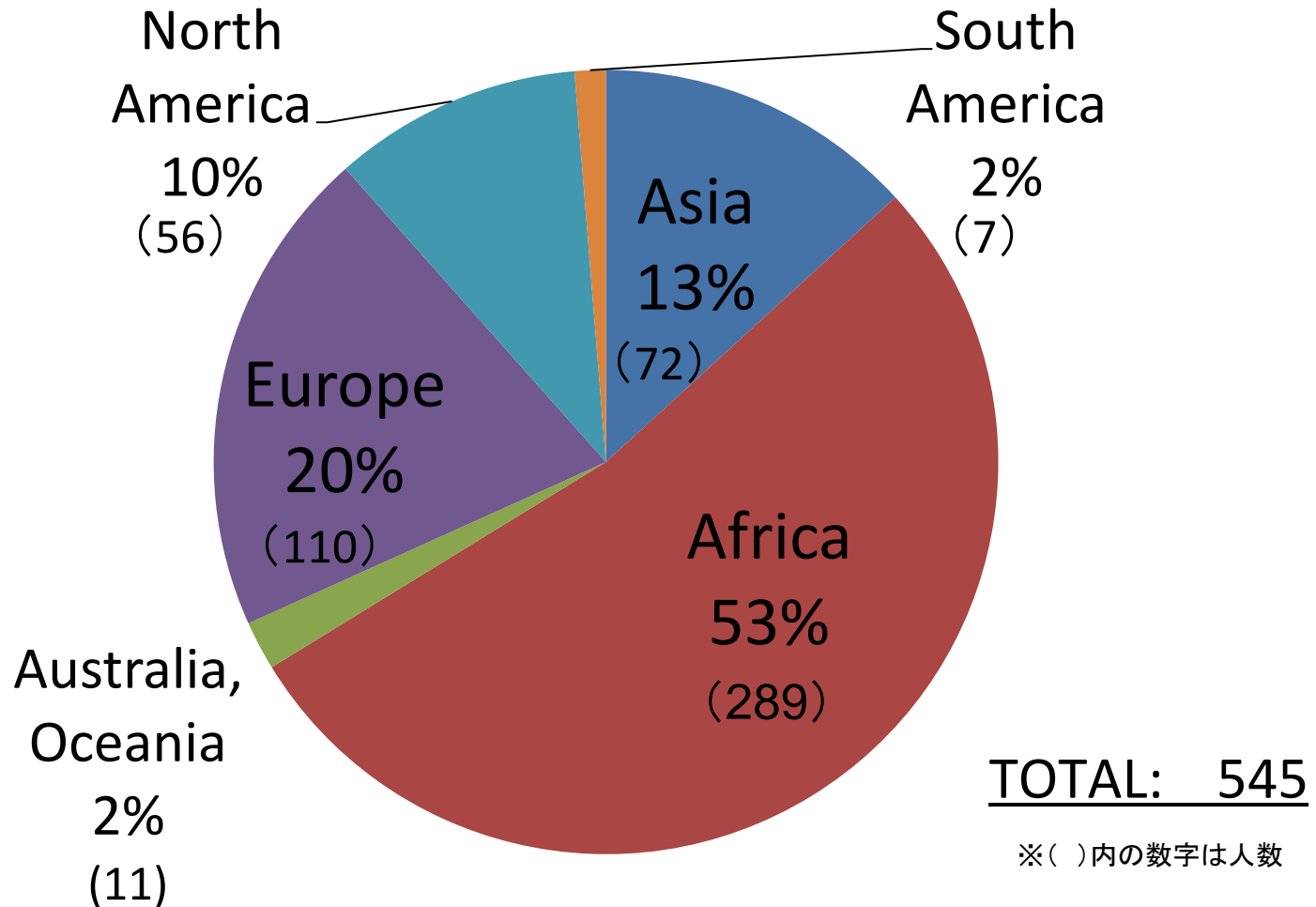
IAIAとは、影響評価のベストプラクティスに向けたイノベーション、開発、コミュニケーションを行う国際的なフォーラムである。また、国際的メンバーから構成されるIAIAは、公平且つ持続可能な開発のベースとなる健全な科学、市民参加に則り、環境、社会、健康やその他多様なアセスメントのキャパシティ・ディベロップメントを地域およびグローバルレベルにおいて促進している。

(出典: <http://www.iaia.org/>)

第29回IAIA年次大会概要

- 期 間： 2009年5月17日（日）～22日（金）
- 開催国： ガーナ共和国首都アクラ市 
- 会 場： アクラ国際会議センター（AICC）
- 参加者数： 545名（政府機関、大学教授・研究者、国際援助機関、コンサルタントなど/日本人13名）
- 参加国数： 71カ国

IAIA09 Delegates by the Numbers



IAIA09 Conference Theme

“Impact Assessment & Human Well-Being” 影響評価と人間の福利

Human well-being (quality of life)

➤ 人間環境宣言（1972・国連人間環境会議）

環境は、ともに人間の福利、基本的人権ひいては、生存権の享受のためには不可欠。

➤ リオ宣言（1992・環境と開発に関する国連会議）

第一原則：

人類は、持続可能な開発の中心にあり、自然と調和しつつ健康で生産的な生活を送る資格を有する。

IAIA09 Conference Theme

“Impact Assessment & Human Well-Being”

影響評価と人間の福利

Human well-being (quality of life)

個人が価値を置く生き方を可能にする能力、
また、望むこと・在り方を実現する機会がどの程
度あるかを指す概念であり、社会経済開発にお
ける重要課題でもある。

(出典: http://www.iaia.org/publicdocuments/conferencedocuments/iaia09/IAIA09%20Finalpro_web.pdf)

参加者への期待

- 生態系サービス*と人間の福利に関する知見の構築と拡充 * 生態系に由来する人類の利益となる機能

to build and improve on the knowledge base of the links between ecosystem services and human well-being.

- 経済発展に係る意思決定および政策レベルにおける環境の主流化を図るためのツールの開発

to develop tools for mainstreaming ecosystems services into development and economic decision making.

主な課題別セッション

- 国際協力における環境社会配慮の新たな動向 (JICA)
 - 開発協力におけるSEA (OECD-DAC)
 - 開発途上国におけるSEAキャパシティビルディングの向上
 - アジアにおけるSEA、EIAと持続可能性評価
 - アフリカ諸国における環境アセスメントの質的向上
 - 市民参加の実践
 - 気候変動と影響評価
 - 社会的影響評価 (SIA)
 - 健康影響評価 (HIA)
 - 企業の社会的責任とアセスメント
 - 大型開発事業と累積的影響評価
 - 生態系サービスの評価
- 等 **75**以上

発表合計数: 228 (SEA=36, Biodiversity=38, Public Participation =22 etc.)

(出典: 環境アセスメント学会誌7(2): 84-86 (2009) 江戸川大学伊藤教授)

Strategic Environmental Assessment

Performance Criteria

効果的なSEAプロセスは、計画者、意思決定者、市民に対して情報を提供し、最も適切な代替案と民主的な意思決定プロセスを確実にするものである。

＜SEAパフォーマンスクライテリア（2002）＞

- ✓ Integrated（統合されている）
- ✓ Sustainability-led（持続可能型である）
- ✓ Focused（焦点が絞られている）
- ✓ Accountable（説明責任を果たすことができる）
- ✓ Participative（参加型である）
- ✓ Iterative（反復的である）

Strategic Environmental Assessment is about...

SEAは、戦略的な意思決定の向上を目指すものである。・・・その最終目標は、「上手くできた」SEA(成果)ではなく、より詳細な情報に基づく決定(informed decision)と、それがもたらすより効果的な開発の成果である。

“SEA is about improving STRATEGIC Decision-Making.... The final goal of an SEA is not a ‘well done’ SEA but better informed decisions and the positive development outcomes they achieve.”

(出典：<http://seaskteam.net/>)

SEAに関する主な意見

＜環境配慮の統合・Mainstreaming＞

- SEAは、気候変動や生物多様性等の地球規模問題を政策、計画、プログラム（PPP）のより早い段階において環境配慮を統合させ、主流化（mainstreaming）を促進させ、持続性を評価するために有効なツール
- ただし、持続可能な開発、人間の福利、生態系保全、貧困削減等ミレニアム開発目標（MDGs）を合理的に解決するための唯一のツールではない。相互の限界を補完し合う様々な「Family of Assessment」の組み合わせが必要

SEAに関する主な意見

<ガバナンス>

- SEAが、政治的・行政的に受け入れられるためには、統治者・意思決定者に対してあらゆる側面においてWin-winの機会の確保が必要
- 単発的なSEAは、限られた効果しかみられないため、多様なSEAの事例の積み重ねが必要
- その累積的効果の有効性を通して、意思決定者が理解、認識し、アクションに移すまで如何に影響を与え得るかが重要

SEAに関する主な意見

<市民参加>

- より早い政策・計画・プログラム形成段階からPublic Participationを促し、意思決定プロセスの透明性確保を図る上で有効
- 特に途上国では、ガイダンスだけではなく、市民の声が反映されているか監督・監視が必要

<キャパシティ・ビルディング>

- SEAプロセス後における制度・組織の強化と合わせた継続的な、対象国・地域の特性に合わせた内容
- 省庁横断型の政策策定実務者を対象とする能力向上プログラムの効果(例:AusAIDとUNDP)

SEAに関する主な意見

<地域性>

- 地域性・ニーズに配慮した柔軟なアプローチ、方法論や手法の確保が重要
- 政治的背景、組織間の協調関係、対象者の環境への意識等その土地・地域の特性への十分な配慮が必要

<その他>

- 開発途上国におけるSEAは、ドナー誘導型 (donor driven) が多い状況のため、カントリーパートナー誘導型 (country driven) の促進が必要

SEAに関する主な意見

<その他>

- 各省庁でSEAを理解してもらうにはかなりの時間、継続的な努力が必要（人事異動、各組織の優先順位の変更等によりなかなか浸透しない）
- SEAは、アセスメントツールの中でも最も戦略的であると思われるものの、現在、地球規模で起きている生態系サービス、気候変動、自然災害等の環境問題が急速に悪化している中、SEAによって適切に対応できているのか、その役割を十分に果たしていないのではないか懸念

第30回IAIA年次大会

- 期間: 2010年4月6日～11日

- 開催国: スイス・ジュネーブ

- 大会テーマ:

グリーン経済への転換期における

影響評価の役割

The Role of Impact Assessment in

Transition to the Green Economy

- URL: <http://www.iaia.org/iaia10/>

ご清聴ありがとうございました。



堀内 綾

TEL: 03-5472-0144

FAX: 03-5472-0145

E-mail: horichi@oecc.or.jp